ラボでは、天井を高くするため、配管やダクトなどを見せたが、「かえってお洒落な感じ」と夫妻は気に入っている。各種の機器、ガス、水道なども作業しやすいよう配置。

とは分かっていたし」

と、奥さま。先ほども触れたように、梁などを隠さず、表しにするのは、むしろ夫妻の望むところだった。天井も、構造用合板をそのまま見せている。壁はシナ合板。家のなかでは、どちらを向いても、やわらかな風合いの木の色が目に入ってくる。それがやすらぎに結びつくのは、いうまでもない。

さらに、構造材の接合部はもちろん、壁の継ぎ目に打たれた釘の跡を見ても、ビシッと揃っている。これは、施工にあたったタウン企画の丁寧な仕事ぶりに負うところが大きい。青山さんが、満足そうに話す。

「非常に気を遣いながら、施工していましたね。天井の仕上げをしなかったりすることで、材料費は節約できたけれど、そのぶん、手間が余計にかかっていると思います」

タウン企画では、これまでに何軒もSE構法の家を建てている。集成材やSE金物の特性、使い方などを職人が熟知していることもあり、仕上がりの正確さや見た目のきれいさは、期待していた以上だった。それでいて、材料を効率的に用いることで、費用は在来工法より安く上がったそうだ。建て主にとって、これほどうれしいことはないのではないだろうか。

T邸 平面図

いつも愛犬と一緒

このお宅は、外観も個性的だ。道路側に突き出たラボの部分は、外壁がガルバリウム鋼板。一方、裏手の住居はサイディングで、温かみのある黄色にペイントされている。ガルバリウム鋼板は、夫妻のリクエストだった。住宅雑誌でたまたま目にして、メタリックな感じがいいなと思ったとか。ただ、全体がそうだと寒々しくなってしまう。青山さんのアイデアでサイディングと組み合わせたが、これがかえってよかった、と奥さまも笑顔になった。

「ラボの横の、細い路地のようなアプローチの先が、自宅の玄関。そこを通ってリビングに入ると、ぱっと視界が広がる。その意外性を強調したかった。苦心したのは、道路が南側なので、どうしても奥の住まいまで光が入りづらかったことですね。吹き抜けにして、高いところから光を取り入れられたのが、よかったと思っています」

青山さんが言うと、横にいた奥さまが口を添えた。

「上のほうから明るいのは、気持ちいいですね。そうでないと、キッチンもすごく暗くなっていたでしょうし。窓から風も入ってきて、ああ、なんていい家なんだろうって（笑）」

新しい家で暮らしはじめて、10か月足らず。夫妻の生活は、がらりと変わった。仕事そのものは相変わらず忙しいのだが、のんびりできる場を得て、気分的にずいぶん楽になったらしい。ご主人は、夜遅くラボから戻ってくると、リビングのソファでそのまま寝てしまうこともある。

「この夏も、それほど暑さが気にならず、快適に過ごせました」

ラボの使い勝手も上々。昼間は日光が入りすぎて眩しいほどという室内で、2人は黙々と作業をこなす。お邪魔した折、エアコンのダクトや配管などが剥き出しになっているのに驚いたが、あえてこうしたという。隠そうとして天井を張り、低くしてしまうよりは、圧迫感がないからだ。また、メンテナンスが容易な点も見逃せない。

リビングと同様、こちらも床暖房が入っており、真冬も寒さを感じない。仕事をしていると、いつのまにか愛犬のハナコとダイスケ（母と息子だそうです）がラボに入ってくる。

「冬は暖かいところに、夏は涼しいところに移動する（笑）。私たちが2階に上がれば、後ろからついてくるし、すごい甘えん坊なんですよ。リビングの床なんて、ワンちゃんの足跡でいっぱいになっちゃってるけど、もう気にしない、気にしない」

安住の家を得て、リラックスした表情の夫妻。最後に、新居の住み心地をお聞きしたら、2人が顔を見合わせてにっこりした。

「いつでもお風呂に入れるし、いつでも眠れるし。つまり、不満はなにもないわけですよ、ね（笑）」

外観。ラボのガルバリウム鋼板と住宅棟のサイディングが、面白い効果を。住まいの玄関へと続くアプローチは、上部にアクリルパネルを張り、愛犬の遊び場にもなっている。

左側：T邸夫妻と愛犬のダイスケとハナコ
右側：設計者 青山晴一さん

設計／青山設計工房
〒471-0044 愛知県豊田市新町3丁目8番地1
TEL:0565-31-5076 FAX:0565-31-5076
e-Mail：aoyama@hm4.aitai.ne.jp

施工／株式会社タウン企画
〒463-0021 愛知県名古屋市守山区大森4-2011
TEL:052-798-6439 FAX:052-799-2820
e-Mail：taunkikaku@mtj.biglobe.ne.jp